

流通とSC・私の視点

2013年2月24日

視点(1702)

流通の3.5体制の選択肢理論とは(その2)!!

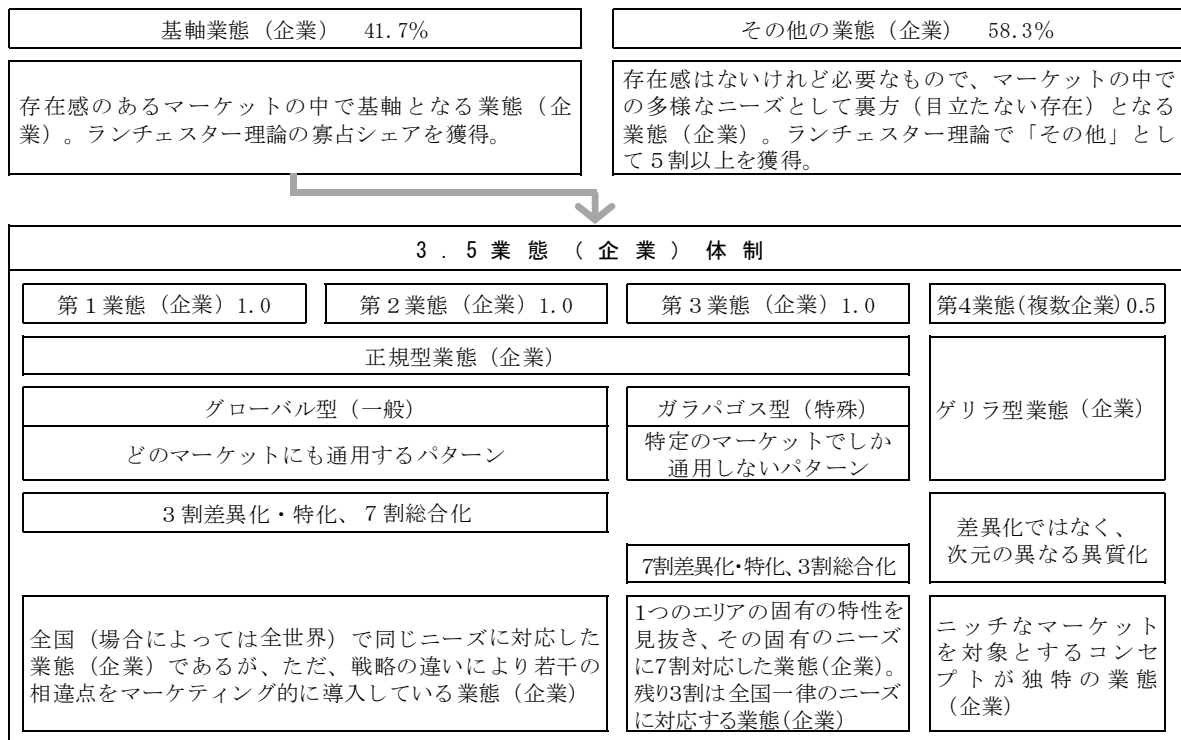
(流通理論編)

— ニューモダン消費時代は3.5体制でなければ客のニーズに対応できない —

流通業界における「1つのマーケットの中に3.5企業体制が一番望ましい」との考え方は、動物の進化の中にも存在します。

- ① 1つは「マダガスカル島における猿の多様化の進化の理論」です。閉鎖的な島であるマダガスカル島の猿は、熾烈な環境の変化(砂漠化による常食の食べものの減少)により猿の数が環境の変化の中で減少するのではなく、環境の変化に適合して逆に“種が多様化”するという進化が起きました。経済も成熟化するとマーケットの成長はなくなりますが、逆に「業態の多様化」が起こり、業態の“数”が増大します。
- ② もう1つは「ガラパゴス島のイグアナの独自発展の進化の理論」です。閉鎖的な島であるガラパゴス島のイグアナは、島の熾烈な環境の変化(砂漠化による常食の食べものの減少)により、自らの体を環境に変化させ“固有化”するという進化が起きました。経済も成熟化するとマーケットの成長はなくなりますが、消費者のニーズの限りない高まりにより、地域固有のニーズに対応した他の地域には通用しない「業態の固有の特性化」が起こり、「業態の成立“分野”」が増大します。

以上のマダガスカル島の猿の進化の理論は「マーケットの縮小に対して業態の数は増大しませんが、逆に業態の多様化が起こる」ことを意味しています。一方において、ガラパゴス島のイグアナの進化の理論は、「マーケットの縮小に対して業態の数は増大しませんが、業態の新たな成立分野を創出する」ことを意味します。それゆえに、20世紀型のモダン消費時代の選択肢理論(2.5体制)と21世紀型のニューモダン消費時代の選択肢理論(3.5体制)は異なるレベルのニーズが発生することになります。それゆえに、流通先進国であるアメリカの流通は、業態の多様化や成立分野の創出により日本の流通よりも選択肢が多くなっています。以下の3.5体制の選択肢理論のメカニズムを解明すると次の通りとなります(六車流:マーケティング理論)。



日本においても、2011年からのSCの飽和期(マダガスカル島の砂漠化と同様のマーケットの停滞・減少とガラパゴス島の砂漠化と同様のマーケットの停滞・減少)には、「業態の多様化」と「特定の地域でしか成立しない業態」が出現します。

(株)ダイナミックマーケティング社⁺
 代表 六車 秀之